

構成員意見（第 1 回懇話会）について

○経営分析（水道事業）

① 災害対策と事業の効率化について（経営診断書 P.18）

水需要の減少に伴い、施設利用率や最大稼働率が減少傾向であり、ダウンサイジングや施設の統廃合が必要となるが、災害のレジリエンスを高めるといった観点から、管路網の冗長化等の施設に余剰を残すことも含め計画すること。どのような経営状況になれば、災害対策よりも効率化を優先することになるか、長期的な戦略も検討すること。【畑山構成員】

② 給水原価の低減に向けた取組について（経営診断書 P.20）

給水原価の低減に向け、業務プロセスの効率化や新技術の活用などによる構造的な改革に取り組むという方向性は正しい。今後も継続して取り組むこと。【川原構成員】

○経営分析（下水道事業）

① 人件費の見直しについて（経営診断書 P.27）

今回実施した人件費の計算方法の見直しは適切な処理をされたと高く評価できる。このような再検討や業務プロセスの見直しを引き続き実施することで、経営改善に努めること。【川原構成員】

② 効率性の課題とリスクについて（経営診断書 P.38）

包括や上下水道一体という観点でメリットを見出していく中で、行き過ぎた包括化はむしろデメリットが大きいと、リスク分散といった観点から分割することも重要である。場合によっては規模を敢えて小さくしておきメリットのあるところに試験的に実施するといった手法も含め、堺市に適合した手法を検討すること。また、市内外の関係者と十分にコミュニケーションを取りながら進めること。【畑山構成員・北詰構成員】

③ ウォーターPPP の目的について（経営診断書 P.38）

ウォーターPPP の目的は、職員数の減少への対応だけでなく、新しい技術の導入や新しい上下水道サービスの提供といった付加価値の創出にある。その本質を忘れずに検討を進めること。【北詰構成員】

○計画評価

政策 01

① 老朽管路の調査について（経営診断書 P.36、P.51）

埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けた国の要請に基づき、リスクのある下水道管路の調査を適切に実施していることは評価する。どの市でも老朽化は課題認識があり、今回はたまたま八潮市で発生したと考えるべきであり、調査・更新にあたっては、布設年度だけでなく材質や設置環境等を踏まえ、優先度を設定し実施すること。【畑山構成員】

政策 02

① 被害状況等を一元的に管理する仕組みについて（経営診断書 P.56）

上下水道の災害時における被害状況を一元的に管理する仕組みの検討にあたっては、既に暗黙知としては持っていると思うが、収集・管理する情報を明確化し、具体的に明文化して共有しておくこと。【畑山構成員】

政策 03

政策 04

① 「すいりん」の利用率向上について（経営診断書 P.65）

「すいりん」により内部事務も効率化されるため、更に利用率を上げることで、大きな効果を生むものと思われる。利用促進に向けた取組の中で、登録して使おうとしたが不便だと感じた、うまく機能せず使用を諦めたといったケースについても分析すること。また、高年齢層に比べ、若年層は積極的にスマートフォンアプリを活用する傾向があるので、若年層に有効なアプローチをすることで、将来的に登録率の上昇が見込めるよう取り組むこと。【畑山構成員】

② 情報発信等の今後の取組方針について（経営診断書 P.66）

上下水道経営に関心がある方、無関心な方を含め、全ての市民に関係のある「料金」についての議論をするにあたり、信頼関係というキーワードは今後より一層大事になってくる。その中で、KPI「情報を見たことがある割合」は、「情報を見てアクションを起こした」といった観点など、今後より実効性の高い指標へ見直す必要がある。また、市民の関心を積極的に測るためにも、自主的または既存のアンケート等を活用しながら、プッシュ型でアンケート項目にアプローチすること。【北詰構成員】